



定期学校訪問シリーズ21～大入島小 大入島中～

少人数で主体的な学びが実現!

佐伯市の沿岸部や山間部等極小規模では、複式による学習指導が行なわれています。

そのような中で、児童生徒が主体的に学習を進めるためには、「ガイド学習」などの指導方法を工夫することが欠かせません。

大入島小学校では、児童の思考の流れに即し、その思考を中断させないようにするための工夫がありました。「ガイド役」の児童を決めて、その児童がお互いの考えを説明し合う場の進行役となっていました。次の学習活動まで「ガイド役」の児童が話し合い等を進行するため、児童主体にならざるを得ません。

第2・3学年の教室では、教師が2年生の指導としている間、3年生では「ガイド役」が話し合いの進行を行い、課題に対して自分たちで考えたことを説明し合っていました。のびのびと、伝えたいことを自分の言葉で伝える主体的な学びの姿が見られました。

【大入島小学校の取組】

<第2学年>



担任は、第2学年の児童に対して課題の設定を行っています。



その時、第3学年の児童は、ガイドに沿って事前に用意されていた課題を自分で考えて、その交流を行っています。

<第3学年>



教科書から自分の考えの根拠となる文章を説明しています。



<第6学年>

答えと式及び考えをホワイトボードに書いていました。

ホワイトボードには、必ず答えと式、根拠や理由を書かせるようにしておくことが大切です。この書き方に慣れていくと、必要な内容を過不足なく説明できる力を育成することにつながります。

【大入島中学校の取組】



図やICTや実物を多様に活用して自分の考えを説明しています。

進学先である高等学校での授業を想定して、自分の考えをクラス全体の前で説明する活動を仕組んでいました。

